

古典学の再構築に向けて

中谷 英明

文部科学省科学研究費補助金 特定領域研究
「古典学の再構築」領域代表

今回の公開シンポジウム「新しい古典学」(平成13年3月27日・28日・於日本学術会議)は、日本学術会議の第一部の三つの研究連絡委員会との共同主催とさせていただきます。語学文学、西洋古典学、情報学の3研究連絡委員会の委員の方々に厚くお礼申し上げます。

文部科学省科学研究費特定領域研究「古典学の再構築」は、種々の古典学が連携しつつ新しい古典学へと脱皮することを目的として、3年前の平成10年8月に発足しました。

19世紀にヨーロッパにおいて近代古典学が成立して以降、西洋、イスラエル、イスラム、インド、中国、日本、チベット、朝鮮などの古典を対象とする古典学は、地域ごとに個別に研究が遂行されて来ていますが、これら古典学の諸学の連携をはかって、方法論と学的枠組みを共同して刷新したい、またそうすることを通じて、諸文明の新しい古典像を提示したいと考えています。

実際、近代文献学という同じ方法論を持って出発したこれら諸古典学は、多くの共通基盤を持っています。本特定領域研究では、この共通基盤を7つの研究項目として立て、計画研究32件、公募研究41件の個別的専門研究をこの7研究項目に振り分けて、各班ごとに共同研究を実施しています。この班を調整班と呼び、参加研究者数とともに示すと以下の通りです*。

調整班と研究者数(合計欄の括弧内の数字は代表者の人数)

調整班(研究項目)	計画研究			公募研究			合計
	代表	分担	計	代表	分担	計	
A01 「原典」	5	14	19	5	1	6	25(10)
A02 「本文批評と解釈」	4	4	8	9	0	9	17(13)
A03 「情報処理」	4	14	18	2	3	5	23(6)
A04 「古典の世界像」	7	7	14	10	1	11	25(17)
B01 「伝承と受容(世界)」	4	6	10	7	1	8	18(11)
B02 「伝承と受容(日本)」	2	4	6	5	4	9	15(7)
B03 「近現代社会と古典」	6	8	14	3	2	5	19(9)
計	32	57	89	41	12	53	142(73)

* 平成13年4月に計画研究、公募研究に入れ替えがあったので、数字は新しい数字とした。

7調整班はそれぞれ、これら個別的専門研究を結ぶ共同研究の企画、推進主体として、予算の裏づけを持つ計画研究とされています。

計画研究としてはこの他に、領域全体の方針を策定しつつ調整班研究の連関をはかり、全体を統括する**総括班研究**があります。したがって領域全体では、32件の専門研究、7件の調整班研究を加えて、40件の課題が計画研究として立っていることとなります。

総括班研究は、領域代表を研究代表とし、2人の評価委員（藤沢令夫・高崎直道の各氏）、7人の調整班代表（池田知久・関根清三・徳永宗雄・内山勝利・中務哲郎・木田章義・月村辰雄の各氏）および事務担当の2氏（丸井浩・高島淳の各氏）を研究分担者として、12名から組織されています。その事務局は神戸学院大学と東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所に置かれています*。

本特定領域はこれまで、5度の**公開シンポジウム**を開催し、8号の**ニュースレター『古典学の再構築』**および2巻の**論文集『古典学の現在』**を刊行して研究成果の流通をはかってきました。

『古典学の現在』の第2巻は、本特定領域の中国学分野が主催された国際シンポジウム「文化的制度としての中国古典」を特集しています。

また前半2年半の各計画研究、公募研究の研究成果は、『**第Ⅰ期研究成果報告**』として本年1月に刊行されました。

また『郭店楚簡老子研究』を始めとする池田知久氏の編著書3冊**、渡辺雅弘氏の「日本におけるギリシャ学・ローマ学の流入・移植・受容と展開の文献史Ⅰ（切支丹時代から昭和十年までの著作文献年表）」、金沢篤氏の“Index to Kumarila's Slokavarttika”の印刷費用の全部または一部を総括班研究で負担しました。

これらの刊行物はいずれも残部がありますので、希望者は総括班事務局までお知らせ下さい。

テキストデータベースに関しては、徳永宗雄氏作成のサンスクリット・テキストデータベース17点を公開しました。これは本特定領域のホームページからアク

セスし、ダウンロードできるようになっています（<http://www.kotengaku.bun.kyoto-u.ac.jp>）。

また安永尚氏は、国文学研究資料館の保有する『日本古典文学大系』（岩波書店刊行）全100巻のテキストデータベースの実験的公開を『古典学の現在』Iにおいて紹介されました。研究者は登録すれば自由に『日本古典文学大系』のすべてのテキストをダウンロードできます***。

この他、総括班のもとに出版委員会、古典教育検討委員会、広報委員会の諸委員会を置いて活動を行っています。広報委員会は、本特定領域のホームページ「**古典学の再構築**」を作り、ニュースレターの全文を電子テキストの形で公開しています。

また総括班は、日本学術会議の3研究連絡委員会、すなわち語学文学・西洋古典学・東洋学の3研連に「**新しい価値観の確立と古典学研究所の設置について**」という報告案を提案し、これは昨年3月に**日本学術会議対外報告**として運営審議会において採択されました。提案の詳細は、日本学術会議のホームページ（<http://www.scj.go.jp/>）に紹介されていますので参照下さい。

その他、2種の雑誌において「**古典学特集**」を組んでいただきました。一つは岩波書店刊行の『**文学**』（平成12年7・8月号）、一つは日本学術振興会刊行の『**学術月報**』（平成12年11月号）です。

特定領域「古典学の再構築」の第Ⅰ期、すなわち前半2年半の研究成果は、先ほど申しましたとおり『**第Ⅰ期研究成果報告**』に報告されていますが、この報告集の報告は、すべての研究代表者の方々に同じフォーマットで執筆頂きました。報告項目は「要旨」、「他領域との連携による成果」、「位置付け」、「研究成果」、「発表成果一覧」という5項目からなっています。

本特定領域における諸研究の成果は「研究成果」、「発表成果一覧」に集約されています。「**他領域との連携による成果**」の項においては、大部分の研究者が、研究会やシンポジウム、ニュースレターなどを通じ、新しい視点や問題意識を持つに至ったこと、それを通し

* 住所等は以下の通り。

(1) 〒651 2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518 神戸学院大学「古典学の再構築」事務局

Tel 078 974 1551 Fax 078 974 5689 E mail nakatani@human.kobegakuin.ac.jp

(2) 〒114 8580 東京都北区西ヶ原4 51 21 東京外国語大学 AA 研高島研究室気付「古典学の再構築」事務局広報担当

Tel 03 5974 3733 Fax 03 5974 3838 (乞高島研究室宛明記) E mail: koten@aa.tufs.ac.jp

** (1) 池田知久著『郭店楚簡老子研究』（平成12年2月）

(2) 東京大学郭店楚簡研究会編『郭店楚簡の思想史的研究』第3巻（平成12年3月）

(3) 東京大学郭店楚簡研究会編『郭店楚簡の思想史的研究』第4巻（平成12年8月）

*** ホームページ <http://www.nijl.ac.jp> において利用登録とアクセスができる。

で新しい方法論を模索していることを報告しています。本特定領域の最重要課題が、共同研究、連携研究を通じての**研究者の意識変革**にあるとすれば、この項目に記述された多くの新知見、新視点は、**本特定領域の成果の核心**をなすと考えられ、古典学そのものが変わりつつあることを明らかにしていると考えられます。

「古典学の再構築」は、平成15年3月まで2年を残すのみとなりました。この間に、共同研究の具体的成果を提出したいと思います。研究成果をまとめた『**古典学叢書**』と、諸文明の古典から新しい視点によって選んだ古典を正確で平易な文体で日本後訳した『**古典選集**』（これらは仮称ですが）という2種の出版物を企画しています。この夏にはそのおよその枠組みを作り上げたいと考えています。

本年9月6日（木）から3日間、一橋記念講堂（学術総合センター）において6名の外国人研究者を招いて公開国際シンポジウム「**古典における新しい価値の発見**」を開催する予定です。近代西洋文明あるいは現

代文明において十分に意識されていないが、実は、21世紀の世界にとって**重要な価値**にどのようなものがあるか。世界の将来にとって、人間性のどの部分をさらに発展させるべきか。人類の未来像はどのようなものとなるべきか。このような問題を諸文明の**古典の視点**から論じてもらいたいと願っています。

さらにサブテーマ「**古典学の現状報告**」では、アメリカ、ヨーロッパ、中国を含む世界の古典学研究の歴史と現況を報告いただき、今後の古典学のあり方を展望する予定です。シンポジウムへの積極的なご参加をお待ちしています。

最後に、本特定領域発足以来の参加研究者のみなさまの惜しみないご協力と、また評価委員やその他の諸先生方の暖かいご高配、ご助言に深く感謝申し上げます。

以上をもって「古典学の再構築」総括班研究の報告といたします。有難うございました。

